

## 〈学術研究集会傍聴記〉

## 第74回日本体力医学会大会傍聴記

柯 丹丹\*

KE DANDAN\*

2019年9月19日から21日までの三日間、つくば国際会議場で開催された第74回日本体力医学会大会に参加した。日本体力医学会は日本で最大のスポーツ医学系学会として、研究発表(一般研究発表・分野横断セッション)、シンポジウムなど様々な企画が毎年行われている。

学会の会期中、私は子どもの発育発達に関する5つのシンポジウムで色んな知識を得て、深い印象を残した。具体的には、児童の運動習慣、身体活動、体力、学力・認知、骨の健康、食習慣などであり、私の研究内容と密接な関係があるテーマのセッションに参加した。私の研究にとって多くの新たな発見となり、子供について体力と健康をテーマにした研究を行う際に、有益な情報を得ることができた。

また、体力測定や追跡研究を主要内容とするシンポジウムには、順天堂大学 J-Fit+ Study の研究者(本学スポーツロジセンター特任助教染谷由希先生)による講演もあった。順天堂大学、東京大学、早稲田大学などの日本の大学の研究チームは、各大学の大学生の体格や体力測定、そして卒業生の追跡研究を紹介した(シンポジウムタイトル:大学卒業生追跡研究の現状と未来)。シンポジウムの参加者はこのような研究プロジェクトを行ううえで、大学間の協力交流の重要性や体力・健康に関する追跡研究の意義を更に深く認識することができた。これらのプロジェクトは大学時代から高齢期の追跡であるが、個人的には、乳幼児から大学生までの追跡研究をしていきたいと考えている。

大会の3日目、私はアジア青少年の健康に関す

\* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 博士後期課程2年  
Graduate School of Health and Sports Science,  
Juntendo University



る「International comparison of body image and weight loss behavior in Asian Female Adolescents」と題したポスターを発表した。発表の1時間の間に、この研究分野に興味を持った研究者からいくつかの問題点を指摘された。例えば、今回の発表では Body image と減量行動の関係を検討したが、Body image と体力の関係を分析することなど、色々な意見やアドバイスを頂いた。

今回の会議参加の意義は、留学生の私にとって、自分の研究視野を広げ、研究進度を促進させることにつながったと思っている。今回の大会は私自身の研究内容と今後の研究テーマを明確にする機会となった。また、中国における研究と日本における研究の類似点や相違を理解するのも役立った。例えば、中国でも大学生を対象とした体力測定が多くの大学で行われているが、研究報告はほとんどない。今後、大学間の国際共同研究のテーマとして大学生の体力データが活用できるかもしれない。

私には健康・スポーツ科学、子供の体力向上などに関する新しい研究を展開したい目標がある。今回の学会大会で学んだことを今後の研究に活かしたい。